

# NO-DIG '90 OSAKA 参加記録

## —27年も前の国際会議

藤田 昌一  
FUJITA Shoichi

(株)東京設計事務所  
特任理事  
長岡技術科学大学客員教授



### 1. その地代はタダか？

水道管や下水道管は、タダで道路の下に埋めさせてもらっているのか？ 電気やガス管は道路占用料を道路管理者に納めている。電柱だって年間1本1,000円くらい地代を払っている。じつは水道や下水道管は、公共事業ということで占用料が免除されているのだ。

1990年ごろ、欧米では道路の占用を有料とするべし、という議論が起きていた。そこで、NO-DIG '90 OSAKAを開くにあたって「日本の制度はどうなっているのか説明してくれませんか？」と遠山啓さんからの依頼があった。

### 2. 大阪で開かれた大きな国際会議

正式には「第6回地下公共施設の非開削関連技術に関する国際会議 (The 6th International Conference on Trenchless Construction for Utilities)」と言う。1990（平成2）年10月16日から18日までの3日間、会場は大阪商工会議所とマイドームおおさか。なんだか大変な人出だった。参加者は1,000人以上、外国からの参加者も目立って23カ国。主催は、JSTT日本非開削技術センター、ISTT国際非開削技術センター。後援は、建設省、通商産業省、郵政省、厚生省など関係各省が名を連ねていた。

参加者の中には、（敬称略で当時の組織のままです）



写真-1

うと) 渡辺隆・武蔵工業大学教授, 赤木俊充・東洋大学教授, 齊藤健次郎・日本下水道施設業協会専務理事, 楠田哲也・九州大学教授, 永田伸之・日本大学教授, 谷口敬一郎・関西大学教授, 竹下貞雄・立命館大学教授など, よく知られた名前がぞろぞろ揃っている。そのほかゼネコン, メーカー, 電気・ガス・通信などの企業, それに国, 自治体などからも続々と参加しており, 我が国の総力を挙げての会議となった。

この時の様子は「月刊推進技術」1990年12月号の巻頭グラフに紹介されている。

### 3. 日本で開く国際会議



写真-2

私は, ぎっしり500人くらい詰まった大ホールで「日本における道路工事に関する法律制度」という題でスライドを使って20分間発表した(当時はまだパワーポイントがなかった)。

同時通訳があるので, 発表は日本語でよいとのこと

であったが, 思い切って参加した外国人向けに英語で行った。とは言っても, 用意した英文を読み上げるだけなので, そんなに難しいことではなかった。イントネーションに気をつけてよく練習しておいたので, カタカナ英語でもしっかりと通じたようだ。

### 4. 道路調整(略称: 道調)

下水道管渠工事の際には, 道路に埋まっている水道, 電気, 電話, ガス, 地下鉄などの他の企業者の工事との調整が大切である。昔から「道路占用工事企業者連絡協議会」というのがあって, それぞれの埋設位置, 施工時期, 費用分担などを仔細に協議調整している。これを通称「道調」という。目立たない地味な仕事であるが重要な役目である。私の発表はこの道調の仕事を経験して紹介したものである。

後日, ISTTのフラックスマン会長からFAXで手紙をいただいた(当時はまだメールがなかった)。それによると「イギリスでも道路工事についての法律改正の動きがあり, 占用料を徴収する議論が起きている。推進工法などの非開削工法の場合には占用料をタダにできないかと検討しており, このたびの国際会議で得られた情報はたいへん貴重であった」とのことである。

さて最近, 水道や下水道の民営化の議論が出てきているが, もし民営化して道路占用料が有料となったら, 道路管理者に払うお金は年間でいかほどになるのだろうか?

道路管理者は今までどおりタダにしてくれるのだろうか? また日本で国際会議を開いて議論すべきだろうか?